

公益社団法人日本マレーシア協会 2025年度の事業報告



写真上: マレーシア政府公務員研修プログラム修了式(2025年11月)

写真下: 「ユアサ商事の森」植樹行事(2026年2月)

2026年4月

国内における活動

●マレーシア国会下院特別委員会日本視察団との会合

駐日マレーシア大使館の依頼を受け、2025年4月と5日に来日した、マレーシア国会下院特別委員会日本視察団と日本マレーシア友好議員連盟及び公益社団法人日本マレーシア協会との会合を下記の通り実施しました。

「環境・科学・植林特別委員会」

2025年4月15日(火)午前10時30分から11時30分 於・第2衆議院議員会館国際会議室

来訪者 マレーシア下院議員5名(サラワク州選出議員2名含む)、随行員5名、駐日マレーシア大使館首席公使

内 容 会長挨拶、視察団代表挨拶と団員紹介、理事長挨拶及び本協会概要と事業について説明後、視察団との間で意見交換

「厚生特別委員会」

2025年5月12日(月)午前11時30分から12時15分 於・第2衆議院議員会館国際会議室

来訪者 マレーシア下院議員4名(サラワク州選出議員1名含む)、随行員1名、駐日マレーシア大使館首席公使

内 容 会長挨拶、視察団代表挨拶と団員紹介、理事長挨拶と本協会概要と事業について説明、視察団との間で意見交換



●サラワク州アバン・ジョハリ首相「旭日重光章」叙勲祝賀会を開催

本協会が1995年から熱帯雨林再生活動を実施しているサラワク州のアバン・ジョハリ首相が2025年11月11日(火)に「旭日重光章」を叙勲されました。叙勲に際し、11月10日(月)昼にジョハリ首相の「叙勲祝賀会」を都内ホテルで開催しました。

マレーシア側から、ダト・シャフリル駐日マレーシア大使、サラワク州森林局長官、同州首相府高官らが参加し、日本側からは、本協会会長、副会長、理事長、日マ友好議連事務局長、外務省南部アジア部長、日マ経済協議会会長のほか、長年にわたりサラワク州の熱帯雨林再生活動にご協力を頂いている株式会社木下グループ、株式会社ジェイエイシーリクルートメント、三菱商事株式会社などの方々にもご参加頂きました。

当日の様子は、ジョハリ首相の叙勲と合わせ、マレーシアのメディアでも大きく紹介されました。



●マレーシア政府公務員研修プログラムへ協力

2025年11月、2023年度、2024年度に引き続き、マレーシア政府公務員（連邦政府、州政府等の中間管理職）を対象とした海外研修プログラムを都内で実施しました。

本プログラムは、ルック・イースト政策のもと、マレーシア政府人事院より国立マレーシア科学大学人材育成センターが委託を受け、日本で実施した公務員研修プログラムで、本協会は後援団体として実施に協力しました。

今回は、マレーシア連邦政府中間管理職員26名が来日し、都内で講義や政府機関訪問プログラムを行ったほか、最終日には第一衆議院会館国際会議室にて、会長、理事長、在日マレーシア大使館次席大使らが参加し、研修修了式を実施しました。

日程

2025年11月17日（月）～20日（木）

実施内容

日本における地方自治体改革などに関する講演

総務省訪問プログラム 行政業務改革の取組みについて説明と意見交換

東京都庁訪問プログラム シン・トセイXについて説明と意見交換、都議会議事堂見学

第一衆議院議員会館国際会議室で研修のまとめと修了式、国会見学

研修参加者所属省庁

首相府、財務省、防衛省、教育省、高等教育省、内務省、保健省、人的資源省、エネルギー移行・水資源変革省、女性・家族・地方開発省、国内取引・生活費省、人事院、ヌグリ・スンビラン州政府、セランゴール州政府、ペナン地域開発局



写真左：総務省会議室で研修、写真右：都庁で研修後、都議会議事堂を見学



研修修了式を終えて

●万博「マレーシア・ナショナルデー」式典に参加

2025年9月8日(月)午前11時から正午、万博会場内迎賓館で「マレーシア・ナショナルデー」式典が行われ、本協会からも参列しました。午後はマレーシア館の視察が行われました。

●在マレーシア日本大使が来訪

2025年12月23日(火)午後、公務で一時帰国中の在マレーシア日本大使が本協会事務所を訪問され、日マ関係などについて意見交換を行いました。



●マレー語スピーチコンテストを開催

2026年3月26日(木)午後、駐日マレーシア大使館と共催し、同館ホールにて「マレー語スピーチ、詩の朗読、歌唱コンテスト」を開催しました。首都圏の大学生10名が参加し、学習の成果を競いました。コンテスト後は軽食を頂きながら、大使や大使館員との懇談を行いました。

(写真右:大使ご夫妻と参加者)



●新春の集いを開催

会員及びご支援頂いている皆様方へご報告と感謝を申し上げ、相互交流を行うための「新春の集い」を2026年2月18日(水)夕刻、国際文化会館セミナーホールで開催しました。当日は、本協会役員・会員並びにご支援を頂いている関係者の方々55名が参加しました。

はじめに、本協会会長が開会挨拶を述べ、続いて、駐日マレーシア大使と外務省南部アジア部参事官より来賓ご挨拶を頂きました。

続いて、大使立ち合いのもとで、当年度の紺綬褒章伝達式を執り行い、株式会社ジェイエシーリンクルートメント代表に、外務省参事官から紺綬褒章に係る褒状を贈呈しました。

その後、本協会の最新活動報告を行い、理事長の乾杯発声を経て、懇親会へと移り、参加者同士による活発な交流が行われました。



写真左:会場の様子、写真右:紺綬褒章伝達式

マレーシアにおける活動

1995年より、企業、団体、個人からのご協力を得て、ボルネオ島サラワク州において熱帯雨林再生のための植林活動を行っています。2018年からは、マレーシア半島部クダ州などにおいて、マングローブ林再生活動を開始し、ボルネオ島と半島部の両地域で、熱帯雨林再生活動を展開しています。

●ボルネオ島サラワク州における活動

株式会社木下グループ(2007年度～)

「木下の森」植林プロジェクト 青少年研修プログラム

アペン国立公園「木下の森」地域にて、地域の小学生、大学生、村人などが活動地を訪れ、森林保全について体験学習する「青少年研修プログラム」を実施しています。活動地に隣接する小学校の児童と教員らが参加し、年間1,200本の植林を行いました。2026年1月24日(土)、セント・ノバート小学校の児童・教員、地域住民が参加してプログラムを行いました(写真下)。



三菱商事株式会社(2008年度～)

サラワク州先住民居住地域における住民参加型熱帯雨林再生プロジェクト

アペン国立公園、サバル国立公園等において、2025年末までにフタバガキ科等在来種と在来果樹の苗木56万1千本と既植栽木のメンテナンス活動を実施しました。

当年度は、2025年7月から2026年6月を事業期間として、サバル国立公園で年間5.5千本の植林と活動地域の子供達を対象とした環境教育プログラムを実施します。村の女性が育苗する苗木購入を通じて、村の生活向上支援を行うほか、村落地域の小学校へ文房具の寄贈も行います。

2025年10月8日(水)、三菱商事KL支店長及び社員の方々5名が活動地を視察し、周辺村落の子供達が通うスンガイ・ピナン小学校の児童・教員、地域住民及び州政府機関職員ら総勢40名が参加し、300本を植林作業と村落地域の子供達への就学支援として文房具の寄贈を行いました(写真下)。



ジェイエイシーリクルートメント(2008年度～)

PPPプロジェクト・「ジェイエイシーリクルートメントの森」熱帯雨林再生プロジェクト

アペン国立公園とサバル国立公園で、「PPPプロジェクト」として、ジェイエイシーリクルートメント日本及び各国法人から年間約5千本分のご寄付を頂き、これまで5万2千本の植林を行いました。

2024年度より、「ジェイエイシーリクルートメントの森」として、サバル国立公園の森林劣化地域に区画を設け、地域社会と共に森林再生に取り組むプロジェクトを開始しました。5年間で2万本の植林を行うほか、年間1回、地域の人々が参加する植樹プログラムを行っています。

当年度は、上期に4,000本の植林作業と地域の村人との植樹プログラムを行い、下期は既植栽木のメンテナンス作業を実施しています。



左:2025年9月の植樹プログラムで劣化した草地に植林、右:植栽木が順調に成長(2026年3月)

株式会社ダンロップホームプロダクツ

(2010年度～) ダンロップホームプロダクツの森

サンパディ保護林で、2024年度までに約2万5千本の植林とメンテナンス活動を、地域住民の協力を得て実施しました。

当年度は、800本の植林作業を2025年9月から10月に行い、既植栽木のメンテナンス作業を実施しています。



高砂熱学工業株式会社(2018年～)「タカサゴの森」熱帯雨林再生プログラム

マレーシア・サラワク大学構内で、2018年から2023年に2万5千本の育苗、植林と既植栽木のメンテナンス作業、学生による植生調査を実施したほか、大学生や地域の小学生などが参加する植樹行事を行いました。2024年1月から第2期活動を開始し、年間1千本の植林と、大学生と地域の小学生が参加する植樹行事を1回開催しています。

当年度下期は、2025年10月7日(火)に本社及びKL支社の方々がマレーシア・サラワク大学副学長・CEOを表敬訪問されたほか、11月29日(土)に同大学生と地域の小学生ら170名が参加して植樹行事を開催しました。



副学長・CEOを表敬



植樹行事

●学生ボランティアによる「オランウータンの森再生プロジェクト」(2024年～)

財団法人日本財団ボランティアセンターと協働し、本協会の熱帯雨林再生活動地(サラワク州アペン国立公園)において、日本の大学生ボランティアの参加による「オランウータンの森再生プロジェクト」を実施しています。当プロジェクトでは、同センターが年間4回、毎回約15名の学生ボランティアをサラワク州へ派遣し、地域の人々と共に植林作業などを行います。10年間の事業として行われ、合計10万本の植林を目指します。当年度は2025年7月から9月に第7、8陣、2026年2月から3月に第9、10陣の派遣が行われ、合計1万本の植林作業が行われました。



「パートナーシップフォレスト」

ダイードリンコ(株)の自販機設置ご協力企業・団体との「パートナーシップフォレスト」としてサンパディ保護林で2025年10月に377本の植林を行いました。

「村の女性による育苗プログラム」

植林活動地域住民の生活向上と参加型プログラムの推進として、村の女性による育苗プログラムを実施しています。定期的に苗木を買い取り、活動地で植林しています。

「バライ・リンギン保護林でメンテナンス活動」

バライ・リンギン保護林で、1995年に植林を行った地域のメンテナンス作業を行いました。



パートナーシップフォレスト



1995年に植林した地域の様子



村の女性が育苗

●サラワク州における外務省関係協力事業（日本NGO連携無償資金協力事業第2期） サラワク州先住民居住地域における村落給水システム整備による生活改善と関連機関のネットワーク構築事業

場 所 サラワク州サバル国立公園周辺地域（第1期事業地から約10km離れた2村落を対象）

内 容 現地NGO、サラワク州政府機関、マレーシア・サラワク大学、地域住民等と協働し、サバル国立公園の周辺村落地域において、脆弱な水環境により生活が困窮している農村の村落給水システムを整備し、村に生活余力を生み出すことで、自立的な給水システムの維持管理を図る。関連機関とのネットワークを構築し、村落給水の状況調査と情報共有を行うとともに、事業成果を他地域へ普及するための体制づくりに取り組む。また、村落において農作改善プログラムを、学校において環境衛生教育プログラムを実施し、生活環境の改善にも取り組む。

期 間 2025年3月31日～2026年3月30日（単年度申請事業の2年目）



左：農作改善プログラム、右：衛生と生活改善ワークショップ（2026年3月）

水源地から対象村落の全家庭へ給水パイプ接続を完了し、1名あたりの1日平均水使用量がマレーシア平均（210リットル）に近い数値になり、村落の水環境が改善しました。整備された給水システムは村人によって維持管理が行われています。また、水環境改善による生活余力を活かして、村落周辺での新たな野菜・果物類栽培や養鶏など、農作改善プログラムが開始されました。

●マレーシア半島部クダ州及びペナン州他における活動

マレーシア半島部クダ州とペナン州の保護林において、2019年度より、州森林局、マレーシア科学大学、地域社会と協働し、劣化したマングローブ林の再生と環境教育及び生活向上プログラムを実施しています。

株式会社木下グループ

「木下の森」マングローブ林再生プロジェクト

クダ州のムルボック保護林では、2025年7月、8月、12月、2026年1月、3月に地域住民グループや地域の高校生、大学生が参加し、植林作業を行いました。その他、地域住民グループによる育苗・植林作業、環境教育展示スペースの整備、村落生活向上プログラム、小学生が参加する教育プログラムなどを行いました。

ペナン州スンガイ・アチェ保護林では、2025年4月に地域住民と現地企業ボランティアらが参加して植林とマングローブの実などを用いたジャムづくり講習を行いました。また、同州プナガ保護林にて、2025年8月と9月に高校生やペナン州大学予科校生らが参加し、植林作業を行いました。

年間を通じて6,000本の植林を行いました。



ペナン州スンガイ・アチェ保護林で植林(左)、プナガ保護林で植林(右)

ユアサ商事株式会社

「ユアサ商事の森」プロジェクト

クダ州ムルボック湿地保護林において、2025年5月、6月、9月、11月にマラ技術専門学校生や地域住民、マレーシア北部大学生、地域住民グループらが参加し、植林作業を行いました。2026年2月9日(月)、ユアサ商事グループ社員、東邦大学生、現地企業ボランティア、地域住民グループなどが参加し植林プログラムを実施しました。

ペナン州スンガイ・アチェ保護林では、地域住民グループによる植林と育苗作業を2025年7月から8月に実施しました。

年間を通じて5,000本の植林を行いました。



クダ州ムルボック保護林にてユアサ商事グループ社員らが参加して植林プログラムを実施(2月) 9

●マレーシア半島部クダ州及びペナン州他における活動

植林活動のほかに、「木下の森マングローブ林再生プロジェクト」の一環として2026年1月10日（土）、11日（日）、ムルボック保護林に隣接する村落施設で、マレーシア科学大学教育学部、クダ州教育庁と協働し、教育支援活動として「マングローブ・キャンプ・プログラム」を実施しました。周辺地域の小学生20名が参加し、マングローブ保全を通じて子供達の理科系科目への関心と創造性を高めることを目的に、マングローブ林に関する学習、水質検査実習とマングローブ林が水質浄化に果たす役割の考察、マングローブ林と私達の暮らしに関する寸劇づくりと実演などのプログラムを行いました。



また、「ユアサ商事の森プロジェクト」の一環として、一昨年度、昨年度に引き続き、クダ州ムルボック保護林周辺村落の子供達が通うハジ・オマー・タヒール小学校の児童への修学支援プログラムを行いました。2025年12月16日（火）に同小学校にて修学支援グッズ贈呈式が行われ、生活保護を受けている家庭の子供達200名へ新学年度用文房具を、困窮家庭の子供20名へは文房具に加えて制服、カバン、靴も寄贈しました。

贈呈式に合わせて、ユアサ商事社員の方々がビデオメッセージを作成し、マレー語字幕をつけて当日学校で上映しました（写真下・上段）。

2026年2月9日（月）、ユアサ商事グループの方々がマングローブ植林プログラムの後、ハジ・オマー・タヒール小学校を訪問し、教員や児童との交流を行いました（写真下・下段）。

